様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ５ 月　 １ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2016～2017
課題番号：１６Ｈ０６９２６

研究課題名（和文）保守運動への女性の参入要因の解明－「女性運動」という観点から

研究課題名（英文）Women's Conservative Movements in Japan: Consideration from Perspective of Gender

研究代表者
鈴木　彩加（SUZUKI, Ayaka）

大阪大学・人間科学研究科・助教

研究者番号：２０７７９５９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「保守」「右派」などのように政治意識としては「右」に分類される政治運動を「保守運動」とし、保守運動の女性参加者たちに着目しながら、「自由・平等・人権」を掲げてきた従来の女性運動とは異なる女性運動のあり方を考察することを目的とした。具体的には、１）女性保守系団体の活動の模様を記録した動画分析、２）戦後日本の保守運動の概観、３）これらの運動を女性運動という観点から読み解く理論研究、を行った。

研究成果の概要（英文）：This research project aimed to reconsider women's conservative/ right-wing movements as women's movements from perspective of gender. In Japan, many groups belonging to “right-wing” have been active since the late of the‘90s. From the gender point of view, I have made investigations into two “right-wing” groups since 2008. Most of the members in the both groups are mainly women. They oppose to gender equality and feminism, and approve gender division of labor. I have focused on their contradiction; although they admire traditional gender norms, they are also engaged in social movements in the public sphere. In this project, I attempted to translate these movements from conservative movements into women's movements.

研究分野：社会学

キーワード：保守運動　ナショナリズム　ジェンダー　社会運動

１．研究開始当初の背景

1990 年代以降、草の根レベルで保守運動が展開されるようになり、保守運動は学術的にも社会的にも大きな注目を集めている。小熊・上野（2003）は「新しい歴史教科書をつくる会」を対象とした実証研究から、従来の市民運動との類似性を指摘するとともに、社会の流動化による「不安」が人びとを保守運動へと接続させているとした。他方で、2000 年代後半になると活動手法をより先鋭化させた保守運動団体が登場するようになり、樋口（2014）は「在日特権を許さない市民の会」および「行動する保守」と呼ばれる諸団体の活動家への調査から、「不安」による動員論を排し、活動家の政治的社会化過程やインターネットを媒介とした接触、「東アジアの地政学的構造」といった要因が、これらの運動の背景にあるとした。

今日の保守運動には女性も数多く参入しており、女性のみで構成される運動団体も複数存在している。多くの国において反フェミニズム運動という側面も有する保守運動に女性が参入し、ジェンダー平等政策の推進やフェミニズムに反対することの意味は、男性活動家とは異なると推測されるが、これまでの保守運動研究では男性参加者が想定されており、ジェンダーの観点が欠如しているために参加者の属性による運動参加動機・経緯の違いが十分に考察されてこなかった。

２．研究の目的

本研究の目的は、保守運動の女性参加者たちを女性運動の観点から取り上げ、「自由・平等・人権」といった諸概念を掲げる女性運動とは異なる女性運動が今日形成されていることを示すことである。申請者はこれまでの研究において、男女共同参画に反対する女性保守運動団体を対象とし、彼女たちが「母親」の立場から家庭内ケア労働の意義を重視していることを明らかにしてきた。しかし、「女らしさ」といった性規範が強く作用するであろう保守運動において、「女性」として自発的に活動することが可能であるかを検討するためには、同じ保守運動においても異なる係争課題を扱う女性保守団体を対象にする必要がある。

そこで本研究では、上記の目的を達成するために次の 3 つの研究計画を実施した。第一に、申請者のこれまでの研究の限界を克服するために、街頭演説やデモ行進・抗議活動などの直接行動という一般的な「女らしさ」から逸脱する運動戦略をとりながらも、「女性」であることを掲げる「行動する保守」の女性団体を研究対象とし、「母親」ではなく「女性」という立場にもとづいた女性保守運動が今日形成されていることを示すとともに、保守運動において「女性」という立場で活動することがどのような構図のもとに可能となっているのかを明らかにすることである。

第二に、「母親」/「女性」いずれの立場であれ多くの女性たちが保守運動に参加するようになり、女性中心の運動団体を立ち上げ活動することがなぜ可能となったのかについて、戦後日本社会における保守運動の系譜を体系的に把握することを通して、保守運動の組織的・戦略的変化という観点から考察した。

そして第三に、「母親」/「女性」という立場性の違いを踏まえながらも、女性たちの保守運動を女性運動として読み替える理論研究に取り組んだ。

３．研究の方法

研究方法は、研究内容（１）については運動団体が行った街頭演説・デモ行進・抗議活動を記録した動画の内容分析を行った。研究内容（２）については運動団体の機関紙・会報の資料分析とし、研究内容（３）では主に欧米の右派女性研究を参照しながら理論研究を行った。研究内容の全体像は以下の図１のとおりである。

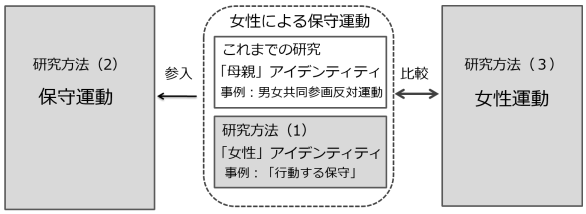

図1　研究計画の全体図

４．研究成果

（１）女性による保守運動の実態を把握するために、インターネット上で公開されている活動記録の動画の内容分析を行った。分析対象としたのは「行動する保守」と呼ばれる直接行動を重視した運動潮流に連なる女性団体の活動動画である。分析の結果、これらの女性活動家たちは「日本人」の「女性」というアイデンティティにもとづいた言論を生産しており、「慰安婦」問題に焦点を当てることによってそうした立ち位置の取得が可能となっていることが明らかとなった。

（２）戦後の保守運動史を辿ることで、保守運動という側面においてこれらの女性たちの社会運動が近年成立可能となった要因を考察した。その結果、1990 年代に草の根レベルでの運動展開が生じたことによって、都市部のみならず地方でも女性が小規模でありながら活動参加していくことが可能となったことが明らかとなった。

（３）女性による保守運動を、「保守運動」ではなく「女性運動」として捉えてみたときに、彼女たちの運動はどのような「女性運動」と言えるのか、理論研究を行った。保守運動に参加している女性たちの中には、「母」という立場にたつ活動家と、「女性」という立場にたつ活動家の 2 類型が存在することを示したうえで、竹村（2000）が提唱した「ドメスティック・イデオロギー」という概念を援用した。「ドメスティック・イデオロギー」とは、女性を家庭内／家庭外、国内／国外という二重の domesticity に分断するイデオロギーであり、女性参政権と高等教育への道を求めた米国の第一波フェミニズム運動が基づいていたイデオロギーであると竹村は論じている。この概念を用いて現代日本における女性たちの保守運動を解釈した。社会運動において「母」と「女性」いずれの立場を取るかということは、運動の性質が異なる。近代社会において社会改革を求めた女性たちは「母」という立場から子どものために社会運動に携わってきたが、そうした女性＝家庭という図式そのものを疑い、「女性」としての運動主体を打ち立てた点に第二波フェミニズム運動の画期性があると言われている。現代社会における女性の保守運動は、「母」と「女性」という 2 つの立ち位置が存在しているが、両者に共通して言えるのはこのような「ドメスティック・イデオロギー」にもとづいた女性運動であるということを提起した。

引用文献

樋口直人，2014,『日本型排外主義――在特会・外国人参政権・東アジア地政学』名古屋大学出版会.
小熊英二・上野陽子，2003,『＜癒し＞のナショナリズム――草の根保守運動の実証的研究』慶応義塾大学出版会.
竹村和子，2000,『フェミニズム』岩波書店.

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①鈴木　彩加、「行動する保守」運動における参加者の相互行為とジェンダー―非-示威行動の場での参与観察調査から、フォーラム現代社会学、査読有、16 号、2017、29-42

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
鈴木　彩加（SUZUKI，Ayaka）
大阪大学・大学院人間科学研究科・助教
研究者番号：２０７７９５９０

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）